

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

【評価の視点】

- ・産・学・官等との連携の方針の明示
- ・地域社会・国際社会への協力方針の明示

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

1) 「学校法人順天堂社会連携推進室運営規程」を定め、「社会連携推進室」を設置している。本学の教育・研究成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本法人における教育研究活動の活性化を図る方針を明示している（資料8-1）。

2) 大学の有する教育・研究成果、人的資源等を最大限に活用し、地元自治体等の意見や住民のニーズを積極的に取り入れ、自治体と大学の将来にわたるパートナーシップを確立し、開かれた大学としてより一層社会の持続的発展に貢献していく。

（資料8-2 社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」）

《産・学・官等との連携について》

1) 「順天堂大学産学官連携ポリシー」を定め、教育と研究という基本使命に加えて、研究成果の社会還元を「第三の使命」とし、本法人における産学官連携活動の活性化を図る方針を明示している。（資料8-3 順天堂大学産学官連携ポリシー）

《臨床研究支援について》

1) 企業や研究機関等との共同研究を推進する部署として「臨床研究支援センター」を設置しており、「順天堂大学臨床研究支援センター運営内規」（資料8-4）を整備している。本学における研究成果に基づき、企業・研究機関等と連携して疾病、負傷等に対する新しい予防・診断・治療法や医薬品・医療機器等を開発し、社会に還元するために「健康研究(Health Research)」を推進するという方針を明示している。

《他学との連携について》

1) 医学と建築学の融合を図り、次世代環境医療、エコキャンパス・ホスピタル及び病院建築に関する研究を推進するため、2009（平成21）年3月に早稲田大学との研究協力協定を結び、共同研究を推進する方針を示している。

（資料8-5 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究協力に関する覚書）

《国際交流について》

1) 国際交流への取組み姿勢として、平成26年度に次の通り「順天堂大学 国際化ビジョン」を制定した。

順天堂は、建学176年に渡り学是「仁」と「不断前進」の精神に基づき、人間の生命と健康を支えるという崇高な目的のために、積極的に西欧の最先端の科学や文化を進取し吸収して知的資産を蓄積し、これらを基盤として海外に卓越した数多くの教育研究成果を発信している。今日までの国際交流において、海外の国や教育研究機関等との多様な交流を保ち、緊密に教育研究、研究者・留学生交流等を連携して友好的学術交流関係を長年培っている。健康・スポーツ・保健・医療・福祉の急速なグローバル化の中における多様な価値観の重層的な交錯する現状を鑑み、教育研究の世界展開を更に円滑に推進させるために、「国際化ビジョ

ン」を次のとおり定める。

<基本方針>

- (1) 知性と教養溢れる国際性に富んだ人材の育成を推進する。
- (2) 新たな知を創造する国際的な研究拠点形成に取り組む。
- (3) 上記(1)と(2)を確実に実現するための学内組織体制や教育研究環境を整備する。

<2> 医学部・大学院医学研究科

1) 地域社会・国際社会への協力方針は、次のとおりであり、シラバス・学生募集要項・ホームページ等の内容に盛り込んで公表している。

- (1) 地域の医師確保の観点から、医学部では、地域枠（東京都、新潟県）の学生受入れや地域医療に関連するカリキュラムを準備し、将来、地域医療に貢献する医師を養成する。
- (2) 各医学部附属病院においては、先進医療や日常の診療を通して、地域医療に貢献する。
- (3) 講演会への講師派遣や公開講座開催により、研究成果を積極的に社会に還元する。
- (4) 医学研究科においては、他学、研究機関等と医学教育・研究における一層の連携を深める。

<3> スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

1) 地域社会・国際社会への協力方針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している。

- (1) 関係自治体との連携により、公開講座を積極的に開催する。
- (2) 地域の子供たちのために、各種スポーツ教室を開催する。
- (3) オリンピック・パラリンピックに代表される各種競技大会へ、選手・スタッフを積極的に派遣する。
- (4) 国内外から一流の研究者・指導者を招き、国際交流プログラム（講義・講演会・シンポジウム等）を積極的に開催する。

<4> 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

1) 地域社会・国際社会への協力方針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している（資料8-6 医療看護学部ホームページ「教育の理念と教育目標」）。

- (1) 個人、家族及び地域社会の人々それぞれに応じて、看護の実践ができる専門知識、技術及び態度を習得した、より多くの質の高い看護職者を養成し、社会の要請に応える。
- (2) 英語教育や海外研修を通して、次世代の看護職者として国際的に通用し、広く保健・医療・福祉の分野においても活躍できる人材を育成する。

<5> 保健看護学部

1) 地域社会・国際社会への協力方針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している。

（資料8-7 保健看護学部ホームページ「学部の基本コンセプト」）

- (1) 保健・医療・福祉の分野を総合的に学び、地域の人々の保健衛生・健康保全に貢献できる看護職者を養成します。
- (2) 自治体及び関係機関並びに周辺大学との交流を積極的に推進し、保健・医療・福祉の分野における生涯教育の拠点として地域と共生する学部を目指します。

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- ・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
- ・学外組織との連携協力による教育研究の推進
- ・地域交流・国際交流事業への積極的参加

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 東京都文京区をはじめ、千葉県内では佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町の7自治体、静岡県三島市及び愛知県東郷町と組織的な連携体制を構築し、教育の振興、スポーツの発展、健康支援など地域社会に寄与することを目的とした取り組みを実施している。(資料8-8 自治体との連携内容一覧)
- 2) 連携協定締結をした自治体と連絡を取り合い、必要に応じて連絡協議会を始めとする聞き取りの場を設け、自治体の要望等に対応した。その結果、各キャンパスを拠点に公開講座等への講師派遣、自治体イベントへの参加等による地域住民との交流、地域貢献活動、スポーツ教室等の開催が活発に行われ、地域に根付いた事業へととなりつつある。
- 3) 2013(平成25)年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(文部科学省)への事業申請に引き続き、2014(平成26)年度も申請を行ったが、不採択であった。
(資料8-9 知の拠点事業概要資料)
- 4) 高大連携1校目として、2015(平成27)年3月に昭和第一高等学校と教育連携協定を締結した。今後、相互の交流を通じ、生徒の視野を広げ学習水準を高めるとともに、教育内容等への理解を深めるなど、大学教育と高等学校との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指していく。
- 5) 2015(平成27)年2月に笹川スポーツ財団とのスポーツボランティア養成事業に関する協定を締結した。これにより2015(平成27)年度から、スポーツ健康科学部のカリキュラムの一環(卒業所要単位の科目として位置づけ)として、スポーツボランティアに関する授業が開始される。
- 6) 奨学目的の寄付を有効に活用した寄付講座を設置して、教育研究の豊富化や活性化を図り、人材を養成するとともに研究成果を社会に還元している。2014(平成26)年度では、20の寄付講座が設置されている。
(資料8-10 平成26年度事業報告書 「10. 寄付講座」)
- 7) 2014(平成26)年6月23日、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の主催による「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定締結式」が開催され、連携協定の締結を行った。今後は、東京オリンピック・パラリンピック対策委員会で戦略会議を開き、オリンピック選手の育成・強化、監督・コーチ及びサポートスタッフの輩出、キャンプ地誘致活動への協力・支援などの検討を始めていく。
(資料8-11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定式)

《研究推進支援について》

- 1) 2013(平成25)年度から2014(平成26)年度にかけてCOI-T(トライアル)拠点として採択された文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」の活動成果の評価が実施され、本学と立命館大学との連携拠点がCOI拠点として昇格するこ

第8章 社会連携・社会貢献

とが決定した。本プログラム(センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム)では、ハイリスクではあるが実用化の期待が大きい異分野融合・連携型の基盤的テーマに対し、集中的な支援を行い、産学が連携する研究開発チームを形成する。

(資料8-12 平成26年度 順天堂大学 幸福寿命を延ばす医療イノベーション)

《臨床研究支援について》

- 1) 相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資するため、独立行政法人理化学研究所と連携基本協定を締結している(2012(平成24)年4月26日付)。基本協定に基づき、2012(平成24)年8月より理化学研究所のCAGE (Cap Analysis of Gene Expression) 法を用いたがんバイオマーカーと臨床応用に関する共同研究が実施されている。

(資料8-13 本学ホームページ「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」)

- 2) 医療実績、臨床現場からのニーズと企業の総合的な技術力を結びつけることによって、医療・ヘルスケア分野の先端医療機器や情報システムなどの開発を行うことを目的として、株式会社日立製作所と連携基本協定を締結している(2012(平成24)年10月1日付)。基本協定に基づき、再生医療、超音波、画像診断などの分野の共同研究が2013(平成25)年10月より実施されている。

(資料8-14 本学ホームページ「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」)

- 3) 臨床支援研究センターでは、文部科学省がんプロ養成基盤推進プラン採択事業、がん専門医療人養成コース、東京大学医学部大学院等との連携大学院を通じて医師・コメディカル・がん専門医に対する生物統計教育、臨床試験デザインに関する教育を行っている。また、多施設共同研究者主導型臨床研究の支援を行っている。

(資料8-15 臨床研究支援センター月例会議資料(2015年3月)統計支援)

《他学との連携について》

- 1) 早稲田大学との共同研究は主に4つのテーマに沿ったWGを中心に共同研究を進めている(高層病院の安全、高層病院の避難、エコ技術、感染環境制御、環境発がん制御)。本学で実施している新病棟の建築に研究の成果を活かすため、同大学と本学の共同研究に清水建設技術研究所も共同研究契約を締結のうえ参加している。

(資料8-16 次世代環境医療研究会組織図)

(資料8-17 共同研究契約書(エコ技術))

(資料8-18 共同研究契約書(高層病院の安全))

(資料8-19 共同研究契約書(病棟の避難))

《国際交流について》

- 1) 国際交流は、大学を挙げて積極的に推進し、2015(平成27)年3月末現在の大学間における国際交流協定校は、14カ国・39校となっている。また、各講座における海外交流校24講座22カ国、118校と活動している。

(資料8-20 大学協力協定締結状況)

(資料8-21 講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2014年版))

- 2) 学外組織のJICAや日本皮膚科学会等の支援を得て、タイ国・皮膚病学ディプロマコース派遣事業をInstitute of Dermatology (IOD) (タイ・バンコク)において1976(昭和51)年から開催している。現在11ヶ月のコースで運営され、これまで約950名の修了者・専門医を

輩出している。

- 3) 北京大学—順天堂大学国際学術シンポジウムを、国際交流協定に基づいて実施している。両大学から精鋭の研究者が国際的にトップレベルの学術的交流を果たし、両大学での共同研究を更に進展させるため、2010(平成 22)年及び 2011(平成 23)年に順天堂大学で、2012(平成 24)年に北京大学でシンポジウムを開催している。

(資料 8-22 2011 2nd International Academic Joint Symposium
Juntendo University-Peking University)

- 4) シャリテ医科大学と順天堂大学ジョイント・シンポジウムを 2010(平成 22)年にシャリテ医科大学で、2011(平成 23)年に順天堂大学で開催している。

(資料 8-23 第 2 回シャリテ医科大学—順天堂大学 ジョイント・シンポジウム
プログラム)

- 5) 学内・学外の臨床医並びに研修医とともに、進歩の極めて早い現代医学の最先端情報を学ぶ目的で、2010(平成 22)年から毎年、アジア太平洋メディカルフォーラムを開催している。これまで「糖尿病の病体と膵β不全」、「成人病は胎児期から始まる」—小さく産んで大きく育てるのは、成人病のハイリスク」、「肺癌の分子標的治療」「歴史的局面を迎えた肺癌外科治療」、「大腸癌の外科治療」「病院の国際認証(JCI)について」「医学部の国際認証(WFME)について」をテーマとしたフォーラムを開催した。

(資料 8-24 第 5 回アジア太平洋メディカルフォーラムプログラム)

- 6) 東京医科歯科大学との共同プログラムとして、両校の学生の日本文化交流や日本語教育について 2013(平成 25)年から相互に協力体制を整備し実施している。

(資料 8-25 東京医科歯科大学*順天堂大学 餅つき大会 案内)

- 7) WHO アナルフィ・アサモア・バー副事務長やポーランド共和国・ツイリル・コザチェフスキ駐日ポーランド大使、台湾・台北医学大学やタイ・マヒドン大学等の表敬訪問が 2014(平成 26)年度で 19 件あった。

(資料 8-26 平成 26 年度 表敬訪問・行事一覧)

- 8) 2014 年度に、外国人学生並びに短期研修者の獲得を視野に入れ、従来の英語版ホームページ(トップページ)のリニューアルを行った。順次既存の内容についてもデザインを含めて更新を進めたところ、本ページ公開直後より、現在短期研修を希望する海外の学生・医師からの本学に関する照会が数多く寄せられている。来年度以降、各カテゴリーにおける受け入れ数の増加が見込まれている。

(資料 8-27 外国人短期研修参加者数の推移)

(資料 8-28 大学院外国人留学生数の推移)

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 医学部主催の公開講座は、「都民公開講座」として、東京都・東京都医師会の後援を得て開催している。本学部・研究科の教育研究上の成果を一般市民に公開するという地域貢献活動として行われている。医学部教員が演者となって、毎回 400 名以上の参加者に理解しやすいよう配慮して講演を行っている。
- 2) 各附属病院では、先進医療を積極的に実践し、それぞれ所在している地域の医療にも貢献している。具体的には、①日常診療におけるスムーズな医療連携、②地域の医療従事者への医療情報の提供、③医師会や自治体主催の講演会等への講師派遣、④地元住民に医療知識等の

第8章 社会連携・社会貢献

学習機会を提供する市民公開講座・研修会、⑤本学の諸活動の広報として地域医療機関や地域の住民への情報提供などを定期的に、各附属病院の特色に合わせて実施している。各附属病院の活動状況は以下の通りである。

(資料8-29 平成26年度事業報告書

「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」)

- 3) 順天堂医院（本院）では、近隣の13の医師会との情報交換会「順天堂医院：医療連携を共に考える会」を毎年2回行っている。公開講座は、「市民公開講座」「がん研修会」「緩和ケア研修会」と題し、年6回開催している。また東京都認知症疾患医療センターとして、「認知症疾患医療・介護連携協議会及び研修会」を年3回、「看護師認知症対応力向上研修」を年1回開催、認知症早期発見・早期診断推進事業においてもアウトリーチチームとして、認知症の疑いがある人を訪問し、状態に応じて適切な医療・介護サービスが受けられるよう支援を行っている。2014(平成26)年には在宅専門クリニックの医師や看護師等を招いた「第1回在宅医療を考える会」を開催したほか、東京都小児がん診療病院として「小児がん早期診断推進研修会を開催した（日本医科大学附属病院共催）。さらに東京都CCU連絡協議会に参画し、地域の医療機関等との連携を強化している。
- 4) 静岡病院は、静岡県東部の医療における基幹病院の役割を担いドクターヘリ運航基地病院、三次救命救急センター、新生児センター、総合周産期母子医療センター、地域がん診療拠点病院、地域肝疾患連携拠点病院、災害拠点病院、広域救護病院となっている。地域がん診療拠点病院としては、がん等の市民が関心を寄せる演題で市民公開講座を年6回（内2回は伊豆の国市と協賛）開催している。総合周産期母子医療センターとしては、医師・看護師を対象に東部周産期研究会を年3回開催している。三次救命救急センターとしては、東部地区救命救急医学研修会を年1回開催している。地域肝疾患連携拠点病院としては、肝炎患者及び一般市民を対象とした講演会6回、医療従事者を対象とした講演会6回、医療従事者、市町及び保健所関係職員を対象にした研修会を年1回開催している。また、地域の中学生・高校生を対象にした職場体験、高校生向けの1日ナース体験には、63名の参加者があった。なお、地域医療機関、近隣の市町へ静岡病院ニュースを年4回発行している。
- 5) 浦安病院は、千葉県東葛南部の地域医療拠点病院（三次救命救急センター及び周産期医療を実施）、地域がん診療連携拠点病院、全県対応型脳卒中・急性心筋梗塞連携拠点病院である。地域医師会との連携を図るために医療連携フォーラムを年4回開催している。また、地域住民向けに市民公開講座を年8回、糖尿病教室を年6回開催しているほか、地域がん診療連携拠点病院としてがん患者への相談会、東葛南部地域難病相談・支援センターとして難病患者に関する講演会や相談会、ふれあい看護体験、まちの保健室へ看護師派遣を行っている。
- 6) 順天堂越谷病院は、埼玉県内精神科救急医療システムとの連携、内科をコアとする総合診療科中心の地域医療の実践を行っており、埼玉県内の病院には多数の医師を派遣している。近隣在住者向けに年3~4回、うつ病や認知症を中心とした精神科領域、膠原病やパーキンソン病、消化器疾患といった難病治療に即した公開講座を実施している。また、精神医療関係者向けに年2回、埼玉東部精神医療フォーラムを開催するとともに、越谷市、春日部市、さいたま市等、自治体主催の市民公開講座にも協力している。
- 7) 順天堂東京江東高齢者医療センターでは、開院時より関係地区医師会をはじめとする関係諸機関との緊密な連携を図るため、地域連携協議会・運営協議会を年2回、区民健康講座を年

第8章 社会連携・社会貢献

8回、新たに医療連携フォーラムを年2回開催した。また、地域の中学生を対象に職場体験（看護・リハビリ領域）を年2回行った。栄養臨床実習、リハビリ実習及び地域の医療ボランティア活動も行った。

（資料8-30 平成26年度事業報告（資料編） 「24. 災害医療・医療ボランティア活動」

8) 練馬病院は、地域医療の拠点病院である。地域連携フォーラム（2014（平成26）年度：6回）や区民健康医学講座（2014（平成26）年度：6回）などの各種講演会、地域医師会医学会等への講師派遣依頼に対応している。開院時より練馬区民の代表や有識者、区議会議員等からなる運営連絡協議会を年2回開催している。小学生・中学生向けの病院見学会、中学生職場体験、自治体主催の看護体験を行っている。また、未来の医療従事者を育成することを目指し、夏休みに合わせて小学生を対象とした病院体験会「C-CUBE」を開催しており、2014（平成26）年度で6回目の開催となった。

9) 各附属病院は、被災地への医療支援隊の派遣、患者の治療、医薬品・医療材料等の支援を通じて、東日本大震災に対する支援活動に積極的に取り組んでいる。震災直後から多数の医師・看護師・技術員を派遣し、医療支援・救護活動を継続している。2014（平成26）年度は福島県において救急医療対応を行った。

（資料8-31 東日本大震災医療従事者等派遣申請・報告書）

10) 本院と分院が有機的に連携し、本学の教育・研究・診療活動を推進している。分院は、地域医療に関する教育施設として不可欠であり、分院の教育活動・機能を向上させることが、本学の医学教育全体を向上させ、その結果が分院を通して地域医療に反映され、貢献に繋がっている。

11) 分院は、卒前・卒後教育上、重要な教育研究施設であり、本学の医学・医療を地域医療として還元するための出口としても機能している。卒前・卒後教育において、適宜個人の学習・研修等の要望に応えつつ分院にローテーションさせている。地域医療に関する医師としての知識・技術から、各科専門医及び地域医療を担える総合医までを育成する教育施設として、地域社会に貢献している。

12) 地域医療に関連するカリキュラムを自治体等の協力を得て更に整備することにより、地域医療に興味をもつ学生に対して多様な教育プログラムを提供している。

（資料8-32 地域卒学生カリキュラム）

13) 社会人入試の実施や、医科学専攻（修士課程）における昼夜開講制の実施、VOD講義等の受講による単位認定を積極的に実施するなど、すでに社会の中で活躍している大学院生が最新の医学知識・技術を習得する等の生涯学習の機会を提供している。

14) 2012（平成24）年度に採択された「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」では、本学及び連携医科系大学（島根大学、鳥取大学、岩手医科大学）と非医科系大学（東京理科大学・明治薬科大学・立教大学）をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を図っている。加えて、一般市民のがんに対する理解の促進を図るための市民公開講座や医療関係者を主な対象にがん研究の動向の周知を図る国際シンポジウム等を実施している。

（資料8-33 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）

15) 医学研究科では、医学教育並びに医学研究のより一層の連携を図るため、2012（平成24）年度より、独立行政法人 国立がん研究センターとの連携大学院制度を開始しているが、

第8章 社会連携・社会貢献

2014（平成26）年度より、国立国際医療研究センター及び国立病院機構相模原病院とも連携大学院協定を開始した。当該制度においては、それぞれの機関に在籍しながら、社会人学生として本学大学院医学研究科博士課程の授業科目（大学院の専門プログラム）の単位修得を可能とし、各機関で行った研究成果をもって学位取得ができる。

（資料8-34 大学院医学研究科博士課程連携大学院）

16) 2003（平成15）年度からの「首都大学院コンソーシアム」の締結による学術交流に加え、複数の大学院と協定を締結し、本学大学院生が特別研究学生等として当該大学院の教授のもとで研究を行うなどの交流を図っている。

（資料8-35 順天堂大学における大学間連携（H26実績））

17) 学外施設学修制度により、申請に基づき、大学院のみならず、地域の医療機関や研究所等における実習・研究等についても認めており、学外組織との連携協力による教育研究や、大学院生による地域交流・地域貢献を推進している。（資料8-36 学外施設学修申請書）

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

1) 生涯学習事業として、公開講座運営委員会および社会連携推進室が中心となり、公開講座を地方自治体と共催している。2014（平成26）年度は3講座が開講された。

連携自治体	テーマ	開催回数	参加者
酒々井町及び印西市教育委員会	生涯学習公開講座	全4回	年間で217名
浦安市総合体育館	「なわとび教室」	年1回	年間で80名
白井市	「介護・寝たきりを予防するための運動と栄養」	年1回	40名

2) 国際シンポジウムは、学内関係者だけでなく、一般参加者や他大学、各地教育委員会、関連企業の方々など多くの参加を得ている。

(1) 順天堂大学主催 国際シンポジウム

年度	テーマ	参加者
2014(平成26)	アダプテッド・スポーツ（障害者スポーツ）とつながる力	400名

(2) 順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター主催 国際シンポジウム

年度	テーマ	参加者
2011(平成23)	「健康格差社会への提案」～幸せな未来の創造をめざして～	300名
2012(平成24)	「ヘルスプロモーションの理念と健康都市づくり」	300名
2013(平成25)	「健康のための身体活動（運動）への介入」 ～現代の刷新的なアプローチ～	300名

3) 地域連携事業については、以下の自治体と連携協定を締結した。

2012（平成24）年10月	佐倉市	2014（平成26）年1月	印西市
2013（平成25）年12月	成田市	2014（平成26）年2月	習志野市
2013（平成25）年12月	酒々井町	2014（平成26）年3月	栄町
2013（平成25）年12月	白井市		

4) 地域連携事業の一環として、成田市生活保護受給世帯の中学1～3年生の学習指導（英・数）

第8章 社会連携・社会貢献

に年間24日、延べ76人の学生ボランティアを派遣した。

5) 全ての運動施設を、本学部の利用規程に則り、希望者に一般開放している。

(資料8-37 さくらキャンパス施設使用規程)

6) サッカー場を、各種団体へ開放している。NPO法人レーベンのサッカー教室を週2回(木・土)開催し、学生も指導者として参加している。レーベンの会員数は100名で、学生指導者は13名である。

7) 体操に興味を持つ小・中学生を対象として、毎週日曜日「順天堂大学体操教室」を開講している。会員数280名、指導者16名で指導を行っている。

8) 陸上競技場にて年間10回程度、中学生から一般の方を対象とした「順天堂大学陸上競技記録会」を開催している。1回あたり約500名から600名、延べ6,000名程度が参加している。

9) バレーボール館を開放し、バレーボールに興味を持つ小学生を対象として、「順天堂大学バレーボール教室」を毎週火曜日に開催している。会員数は150名で、バレーボール部所属の学生約65名が指導にあたっている。

10) バasketボールに興味を持つ成田市内の中学生を対象として、「Basketボール教室」を開講した。参加人数50名、指導者7名で指導を行っている。

11) 健康社会学ゼミナールと白井市民との交流会を開催した。主催は白井市教育委員会で、本学からスポーツ健康科学部長と市民10名が参加した。

12) 東京オリンピック・パラリンピック誘致活動をはじめとしたスポーツ事業について、各教員が要請を受け、委員会活動に携わっている。特に、日本オリンピックズ協会会長は本学教員であり、2020(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピック誘致に積極的に協力した。

13) 印西市市民アカデミー受講者約25名が本学で講義・施設見学を実施した。

14) 文京博覧会「ぶんぱく」に出展した。文京区のイベントにおいて、産学連携の分野からアキレス(株)と共同開発したパンプスを紹介した。

15) 文京区体力向上推進事業として、文京区立小学校20校へ、体力向上についてのアドバイザー派遣(教員)、及び指導員(学部生・院生・卒業生)の派遣を計120回実施した。

16) 陸上競技記録会を中学生から一般及び文京ジュニア・アスリート・アカデミー受講生を対象に全8回開催した。

17) 近隣住人42名を対象に介護・寝たきり(ロコモ)予防のための運動教室を開催した。平成27年度も継続して実施していく。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

1) 千葉県、浦安市、千葉県看護協会等からの本学部の教員に対する委員就任の協力要請に対し、2012(平成24)年度は20人、2013(平成25)年度、は18人の教員、2014(平成26)年度は14人を派遣して活動の企画・運営に参画している。

2) 全国の大学・高校・病院からの講演・研究指導等の講師派遣要請に対して、2011(平成23)年度は11件、2012(平成24)年度は15件、2013(平成25)年度は11件、2014(平成26)年度は20件の協力している。

3) 毎年1回公開講座を浦安市教育委員会の後援を受けて一般市民を対象に開催しており、毎年40名前後の一般市民の参加を得ている。また、2014(平成26)年度からはオープンスクールとして3回の講演会を開催した。

第8章 社会連携・社会貢献

年度	テーマ
2012(平成 24)	今こそ災害対策を！～みんなで創る災害に強い街～
2013(平成 25)	運動って楽しいね～親子で運動の楽しさを見つけよう～
2014(平成 26)	【公開講座】 “今どき感染症”の正しい理解と対応～デング熱の対処術！～ 【オープンスクール】 ・国際保健論 ・子供と家族を育む小児看護学 ・呼吸リハビリテーションの進歩と実際

- 4) 学生においては、順華祭（学園祭）において参加型の看護体験の企画を毎年行っている。また、病院内でのボランティア活動として小児科での患児の支援（チャイルドサポート）、障がいを持った子どもたちへの支援（ともボランティア）や東京進行性筋委縮症協会江戸川支部の企画への支援、在宅患者への支援を行っている（東筋協サークル）。
- 5) 2014(平成 26)年 8 月 25 日に、テディベアクリニックサークルの医療看護学部学生 11 名は、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で福島県会津若松市内に避難している大熊町立大熊幼稚園児を対象にして、ぬいぐるみを用いて保健教育や病院に対する恐怖心をなくしてもらうための活動を行った。
- 6) 2012（平成 24）年度から教員の指導のもと、学生は浦安市の「学生防犯委員会 V5」に 5～10 名程度の有志学生が毎回参画し、他大学と合同で自転車盗難の防止を中心とした活動を行っている。
- 7) 浦安市の要請により 2013（平成 25）年度から「うらやすこども大学」事業に協力している。2014（平成 26）年度は市内在住の小学 4 年生から 5 年生 60 名を対象に「からだの不思議」をテーマに授業・演習を実施した。
- 8) 2014（平成 26）年 11 月 16 日、認知症に対する正しい理解の啓発活動「2014 認知症メモリーウォーク千葉 in 浦安」に教員 3 名が救護班として参加協力した。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結している。（資料 8-38 三島市との協定書）
- 2) 教員によるシンポジウムや研究会、地域での勉強会、講演会、論文等の執筆などを通じて教育研究成果を社会へ還元している。静岡県、三島市、看護協会等からの本学部の教員に対する委員就任等の協力要請に対し、積極的に教員を派遣し活動の企画・運営に参加している。三島警察署協議会、三島市高齢者福祉及び介護保険運営懇話会、静岡県看護協会の保健師・看護師職能委員会、学術研究推進委員会、認定看護師管理者教育運営委員会への委員派遣を行っている。
- 3) 三島市教育委員会主催「みしま教養セミナー」に、専任教員が毎年 1 講座を担当し「心と身体健康」をテーマに講義をしてきたが、2014(平成 26)年度より、「みしま教養セミナー・順天堂大学コース」が開講され、本学部教員 5 名が講師を務めている。参加者は 122 名である。

第8章 社会連携・社会貢献

月日	テーマ	講師
9月5日(金)	心とからだの哲学—幸福とは何か	長沼淳准教授
9月12日(金)	軽やかな胸の動きで呼吸を楽に	稲富恵子特任教授
9月17日(水)	ストレス対処力を高める心のストレッチ	浦川加代子教授
10月2日(木)	心身の疲労回復・改善のためにアロマセラピーでリフレッシュしましょう！	泉川孝子准教授
10月10日(金)	自分にとって質の良い睡眠をとるための生活習慣を探る	近藤ふさえ教授

(資料8-39 みしま教養セミナー『順天堂大学コース』の開設について)

- 4) 社会貢献及び地域交流の一環として、自治体、外部団体等から要請される教員への講演会・シンポジウムでの講演・講師依頼に対して、協力を行っている。また、地域の人々も参加する順咲祭(大学祭)において、学生が研究展示の企画を行っている。なお、順咲祭では、障がい者支援センターの自主生産品販売ブースを設置している。
- 5) 一般市民対象の公開講座を毎年1回開催している。

年度	テーマ	参加者
2014(平成26)	高めよう!!健康力!!	40名

(資料8-40 保健看護学部 公開講座のお知らせ)

- 6) 学会をはじめとした各種社会活動や行政・看護研修会等への施設利用を認めている。また、地元住民の早朝ウォーキング、休日テニスなどに、多目的グラウンドを登録制で貸出している。(資料8-41 順天堂大学三島キャンパス施設利用規則)
- 7) 静岡県、三島市とのリバーフレンドシップ制度締結による、学生ボランティアサークル(大場川クリーンズ)が、地元を流れる大場川の清掃活動を年5~6回実施している。
- 8) 市、町内会の行事、イベントへの学生・教職員有志の参加及び施設の貸出を行っている。
- ・大宮町夏祭りフェスタ菰池
 - ・静岡県「子供は地域の宝事業」の三島市大宮町子ども会主催イベント
 - ・三島市地球温暖化防止イベント「キャンドルナイトみしま」
- 9) 三島市「ガーデンシティみしま推進会」に参画し、市内の美化、花の街づくり活動に賛同している。
- 10) 公衆衛生看護学の演習に、地元町内の方々が「教育ボランティア」として参加し、感想・意見を述べる機会を作っている。
- 11) 2014(平成26)年度より、基礎看護学の演習に、地元町内の方々が模擬患者として協力する体制を作っている。
- 12) 公衆衛生看護学領域の教員と学生が、県市町のイベントに積極的に参加、協力し、活動している。

第8章 社会連携・社会貢献

イベント等	内容	主催
ふじのくに健康長寿サミット参加	健康増進や生活習慣病予防についての情報発信	静岡県
「ふじ33アプリ」体験プログラム教室参加	「運動・食生活・社会参加」の3要素を盛り込んだ生活習慣改善プログラム「ふじ33プログラム」の実践ツールアプリの体験	静岡県
「トツキトウカ×ママとね👶ベビーフェス」イベント参加	出産・子育てに関するイベントでの保健師の健康相談コーナー	静岡県、三島市、NPO法人
自殺予防週間キャンペーン協力	三島駅南口駅前です自殺防止の呼びかけ	三島市
秋の健康祭りでの健康チェックイベント参加	保健師による健康チェックイベント	三島市

13) 富士山の御殿場口新5合目コミュニティスペース「マウントフジトレイルステーション」に参画した。標高1,440mのステーションで、登山者や環境保護協力者など、多くの人々と交流し、大学、地元自治体、地元事業者、民間事業者、ボランティア、各分野の専門家等の協力により環境保全活動や、体験型プログラムなどの環境教育が実施された。

14) 伊豆マラソン大会の救護班スタッフとして教員・学生が協力した。

2. 点検・評価

[基準8]

大学は、社会との連携と協力を配慮し、教育研究の成果を広く社会に還元しなければならない。

●基準8の充足状況

地域社会との連携は「社会連携推進室」、研究機関との連携は「臨床研究センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結も進み、教育研究成果を社会に還元する各種取り組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。他学、学外研究機関、企業との連携も進み、特許出願等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域医療への貢献も果たしている。以上のことから、同基準を満たしている。

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 社会貢献については、昨年同様、本学の特性を活かし、研究成果の社会的な還元という観点から公開講座やシンポジウム・学術講演会等が数多く開催できている。医学関係では最新の情報や技術等の提供があり、スポーツ関係では子供やスポーツに興味のある青少年等のための運動プログラム等を行い、また看護関係では、市民参加型の体験学習等を、精力的に行っている。
- 2) 社会連携推進室及び各キャンパスの社会連携推進室分室が整備されたことにより、よりスムーズな窓口対応が可能となった。また、社会連携事業に関して、社会連携推進室ホーム

ページより、情報発信を積極的に行っている。

(資料8-42 社会連携推進室ホームページ)

- 3) 2020 (平成 32) 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、健康総合大学として積極的に関与しているが、関連して、2015 (平成 27) 年 8 月に開幕する世界陸上競技選手権大会北京大会に参加する米国代表チーム (選手・コーチ約 200 名) の千葉県での事前合宿が決まり、スポーツ健康科学部「さくらキャンパス (千葉県印西市)」が、その合宿地の一つとして決定した。

(資料8-43 2015 年世界陸上競技選手権大会北京大会の米国代表チーム事前合宿地に本学さくらキャンパスが決定)

《学外組織との連携協力による教育研究の推進について》

- 1) 文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」において、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、(株)日立製作所、(株)ニッピと連携し宇宙科学、医学、スポーツ科学の要素を取り入れ、病気や加齢に伴い移動能力が低下する「ロコモティブシンドローム」の未然防止に向けた介入方法を開発し、加齢に伴い失われた機能を取り戻す、すなわち、「ロコモ時計」の巻き戻し、人々が最後まで自分の足で動ける社会を目指している。

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との基本協定に基づき実施しているがんバイオマーカー共同研究の成果として、2013 (平成 25) 年度に特許 5 件を共同出願した後、2014 (平成 26) 年度に国際特許 (PCT) 出願を行った。うち 3 件については、JST の外国特許出願支援制度に採択されており、出願費用の一部助成を受けている。

第 2 回理研・順天堂共同研究発表会を開催して研究成果を発表し、共同研究者間の情報共有を行った (平成 26 年 12 月 22 日、於センチュリータワー南 19 階)。参加者は 134 名 (第 1 回参加者 88 名) であった。この他、現在は論文 1 件が投稿されている。

(資料8-44 本学ホームページ「理研・順天堂共同研究発表会を開催」)

- 2) 株式会社日立製作所との連携基本協定に基づき実施している共同研究では、第 4 回順天堂大学・日立研究連携ワークショップを開催した (平成 26 年 7 月 26 日、於センチュリータワー北 16 階)。参加者は 117 名 (第 3 回参加者 70 名) であり、研究相談 2 件が実施された。この他、現在は論文投稿 1 件、論文 1 報掲載[Kerver A et al. See-through brains and diffusion tensor MRI clarified fiber connections: A preliminary microstructural study in a mouse with callosal agenesis. Magn Reson Med Sci, doi:10.2463/mrms.2014-0142 (published on line March 31, 2015)]となっている。

(資料8-45 本学ホームページ「理研・順天堂大学・日立研究連携ワークショップを開催」)

《他学との連携について》

- 1) 共同研究では建築学と医学の融合を図るとともに、医療現場の視点も取り入れて研究を進めてきたことから、より実用的な成果を上げることができた。国内初となる非常用エレベーターを避難誘導に活用できる「高層病棟避難安全システム」の適用を受けたほか、エコ技術、感染制御技術、病室環境改善および医療施設の災害対策などで多くの成果を上げた。これらの研究成果を社会に還元すべく、早稲田大学との共催により次世代環境医療シンポジウムを開催してきた。医療、建築、製造業界を中心に参加者は両シンポジウムとも

第8章 社会連携・社会貢献

350名を超えた。B棟I期竣工後もWGにおいて感染制御技術などの共同研究を進めている。

開催時期	テーマ
2011（平成23）年6月	エコロジーと耐震強度を考えた新世代病院と非常時への備え
2013（平成25）年1月	安心と癒しとエコロジーに配慮した最新の病院 —最新のICT化病院とその理想像—

（資料8-46 2014（平成26年）2月21日（金）東京新聞「東京消防庁新基準適用第1号 順天堂の新病棟で訓練」）

（資料8-47 次世代環境医療研究会2013年度報告書）

（資料8-48 第1回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料8-49 第2回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料8-50 第3回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料8-51 第4回次世代環境医療シンポジウムポスター）

《国際交流について》

- 1) 国際交流センター長を中心として、その下で本学の国際交流に関する運営母体のJUIC（Juntendo University International Center）教育委員会が毎月開催されている。委員会では、審議事項のほかに、定型的な報告事項として、国際交流協定校情報、来訪団体、海外からの医学部短期研修、留学生状況、奨学金、英語版HP、文化教育活動、病院診療支援状況等の報告等を行っている。本学の国際交流に関する運営母体として有効に機能している。

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 2014（平成26）年度の博士課程入学志願者の約3割が社会人であり、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択により2013（平成25年度）年度に新設された「次世代先導的がん研究者養成コース」は、がん治療認定の申請資格の単位の一部として認められるなど、すでに社会の中で活躍する医師の生涯学習の機会として十分な役割を果たしている。
- 2) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」による市民公開講座や国際シンポジウムには、多数の参加者を得て、十分な教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動を行っている。
- 3) 2012（平成24）年度より連携大学院制度を開始した独立行政法人 国立がん研究センターに所属する大学院生のうち3名が、2014（平成26）年度に3年次修了申請を行ない、3名全員が審査に合格し大学院を修了した。2014（平成26）年度に連携大学院制度を開始した国立国際医療研究センターからは7名、国立病院機構相模原病院からは1名の入学者があった。また、2014（平成26）年11月には、国立がん研究センターとの連携大学院シンポジウムを開催した。

（資料8-52 国立がん研究センター・順天堂連携大学院シンポジウムポスター）

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 社会連携推進室分室の設置により、周辺自治体との連携が進んでおり、市町村との公開講座・学術支援・スポーツイベント・学生ボランティア派遣等の活動が増加している。
- 2) 中学校・高等学校の部活動に対する体育施設開放に加えて、2011（平成23）年度からは地域の小学生を対象としたサッカー・体操・バレー等の教室を開講しており、好評を博して

いる。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

- 1) 定期的に健康増進や保健衛生に関するテーマで公開講座、オープンスクールを開催し、教育研究の成果を社会に還元できている。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 2014(平成26)年1月、本学部と三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結することができた。(資料8-38 三島市との協定書)
- 2) 学生が、積極的に地域に関わろうという意識をもってボランティア活動に参加している。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 社会連携事業についての窓口が明確となり、連絡協議会等、各自治体の要望の吸い上げの場も増えたが、地域課題はどの自治体も似ており、複数の自治体から同内容についての事業協力の依頼がくるが、全ての要求に応じられない。今後は類似した事業(講座)については、統一して行う等の工夫が必要である。

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の進捗・研究成果については、共同研究発表会を通じて共同研究者間の情報共有を図っている。出願した特許については、実用化には至っていない。論文発表を通じての社会への研究成果情報の提供は、まだなされていない。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究の進捗・研究成果については、ワークショップを通じて共同研究者間の情報共有を図っている。論文は1報が発表されたが、他の共同研究からは、未だ論文を通じての社会への研究成果情報の提供は、なされていない。また、実用化に至る成果も得られていない。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の拡充によって、今後、より多くの短期留学生・外国人研究者が本学に来訪することが見込まれる。出願や照会対応の手続きについての負担を軽減する必要がある。
- 2) 在籍中の留学生・外国人研究者について、サービスの充実を進めているが、今後は離籍した後のフォローアップが重要となる。離籍後の連絡先確認に加えて、当センターからの連絡(近況報告等)を行い、もう1歩踏み込んだ関係性の構築を進める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 引き続き、本学の特性を活かし、公開講座・シンポジウム・学術集会を開催することで、教育・研究成果を社会へ還元を図るとともに、高等学校との連携協定締結を契機に「高大接続改革実行プラン(平成27年1月16日文部科学大臣決定)」への対応を積極的に展開する。なお、小・中学生のアスリート育成及び高齢者の健康増進・支援に対するニーズが

第8章 社会連携・社会貢献

高いことから、全学的な事業の拡大を目指す。

- 2) これまでも様々な社会連携活動（研究成果の発信、公開講座の開催、ボランティア活動等）を実施しているが、教員個人と自治体、研究室と自治体等の個々の取り組みも多く、大学が把握していない社会貢献活動も数多く存在している。これらを社会連携推進室及び社会連携推進室分室にて把握、認識することにより、必要に応じて支援を行い、更なる活動の充実を図る。このように社会連携推進室の機能強化によって、従来の事業の内容の充実、規模の拡大並びに新規連携事業への取り組み等の推進を担い、人々の健康維持・増進・回復に寄与すべく、広く社会に還元できる体制の確立を目指す。
- 3) 2015年世界陸上競技選手権大会北京大会の米国代表チーム事前合宿に関する誘致活動は、千葉県主導のもと、本学、成田市及び佐倉市が連携して成功した。コンソーシアム（県・市・大学の連携）による誘致実績は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新たなスタイルであり、コンソーシアム形式での誘致活動を積極的に展開していく。また、同合宿は、学生教育の絶好の機会ととらえており、スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科からは、レーニングや運営補助担当として、学生を派遣したい。2015（平成27）年4月開学の国際教養学部からも通訳担当のボランティア学生を派遣したい。

《学外組織との連携協力による教育研究の推進について》

- 1) 文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」において、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、㈱日立製作所、㈱ニッピと連携し研究開発を行ってきたが、今後はさらに連携先の企業を増やし、企業や大学だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するとともに、革新的なイノベーションを創出するイノベーションプラットフォームを整備する。

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究において国際出願（PCT）した特許について、発明内容と実用化の可能性を評価し、各国移行の可否を判断する。研究進捗の結果、新たな知見が得られた研究については、更なる特許出願を行う。共同研究発表会については、研究の進捗を踏まえ、より効果的な形式の基に開催する。
- 2) 株式会社日立製作所との共同研究では、双方の組織変更、人員の異動を踏まえて連携推進体制の刷新を行い、新体制の基にワークショップの形式を協議した上で、開催の運びとする。

《他学との連携について》

- 1) 新病棟の竣工により、建築に関する共同研究は各グループの研究の総括を行っている。基礎研究部会は今後も研究を継続していく。感染環境制御 RG では透析病棟等の室内環境の測定を建替前から行っており、新病棟との比較が可能となる希少な研究データの蓄積が進んでいる。また共同研究の成果を新病棟に導入していることから、技術検証を行うなど今後の発展が期待できる。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の更新作業を進め、外部への情報発信をより広くより深いものとしたことで、海外からのアクセス増加に繋がった。こうした外部からの関心の高まりを受け、JUIC教育委員会においても、今後、教職員や学生の国際交流に関する事項に加えて、国際レベルで

の科学研究や共同研究に関する事項について、国際交流の観点から積極的に関与していくことを目指す。

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 引き続き、ホームページや募集要項、研究科説明会等において、社会人入学者へのサポートを含めた周知を図る。
- 2) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」におけるシンポジウム等の開催にあたっては、海外の教員の招聘、テレビ会議システムによる海外の教育研究機関との共同開催等により、国際化をより推進するとともに、幅広い方の参加を得られるよう適切な周知を引き続き行う。
- 3) 今後も継続して連携大学院制度を推進していくとともに、共同研究への発展の可能性も視野に入れ、各機関との連携強化を図る。

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 社会連携協定を締結した自治体と合同で公開講座やシンポジウム・学術講演会・スポーツイベント等の行事を積極的に開催する。
- 2) 地域の小学生を対象とした、陸上・サッカー・体操・バレーの各教室を継続して開催することで地域に貢献していく。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

- 1) 公開講座・オープンスクールの開催回数を増やし、地域住民の健康増進、保健衛生に貢献していく。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 三島市との連携協働協定に基づき、連携項目を増やすべく、検討・協議を進める。
- 2) 地域との連携が学生教育に活かされる仕組みづくりを進める。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

〈社会連携について〉

- 1) 現在、個別で行われている連絡協議会等をいくつかの自治体と合同で開催する等、近隣自治体での意見交換の場を設け、類似事業の統一や新たな実施方法を模索していく。

〈臨床研究支援について〉

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の実用化については、がんバイオマーカー特許情報を秘密情報保持契約下に診断薬メーカーに開示し、診断薬の開発を目指す。論文発表については、引き続き共同研究発表会を開催し、共同研究者間の情報共有と研究促進を図るとともに、研究者との研究相談等を通じて、論文発表を促して行く。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究については、引き続きワークショップを開催し、共同研究者間の情報共有と研究促進を図り、論文発表を促して行く。研究の実用化については、事業性の評価を行い、日立事業部での実用化・製品化へのステップアップを目指す。

〈国際交流について〉

- 1) 増加傾向にある短期留学生・外国人研究者をよりスムーズに受入れるために、出願や照会対応のマニュアル改善を進める。また、宿舎の確保や日常生活のサポートといった、受け入れ環境の一層の改善を関係各所と調整していく。

第8章 社会連携・社会貢献

- 2) 留学生・外国人研究者が離籍した後のフォローアップの強化として、各講座・研究室との情報共有を行いながら、メーリングリストを活用し、年に数回順天堂の近況報告ができるようにする。

第 8 章 社会連携・社会貢献

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
資料 8-1	社連 8-1	学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
資料 8-2	社連 8-2	社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」
資料 8-3	研支 8-1	順天堂大学産学官連携ポリシー
資料 8-4	臨支 8-1	順天堂大学臨床研究支援センター運営内規（既出 資料 7-14）
資料 8-5	再編 8-1	学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書
資料 8-6	医看 8-1	医療看護学部ホームページ「教育の理念と教育目標」
資料 8-7	保看 8-1	保健看護学部ホームページ「学部の基本コンセプト」
資料 8-8	社連 8-3	自治体との連携内容一覧
資料 8-9	社連 8-4	知の拠点事業概要資料
資料 8-10	総務 8-1	平成 26 年度事業報告書 「10. 寄付講座」（既出 資料 4-4-2）
資料 8-11	総務 8-2	2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定式
資料 8-12	研支 8-2	平成 26 年度 順天堂大学 幸福寿命を延ばす医療イノベーション
資料 8-13	臨支 8-2	本学ホームページ「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」
資料 8-14	臨支 8-3	本学ホームページ「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」
資料 8-15	臨支 8-4	臨床研究支援センター月例会議資料（2015 年 3 月）統計支援
資料 8-16	再編 8-2	次世代環境医療研究会組織図
資料 8-17	再編 8-3	共同研究契約書（エコ技術）
資料 8-18	再編 8-4	共同研究契約書（高層病院の安全）
資料 8-19	再編 8-5	共同研究契約書（病棟の避難）
資料 8-20	国交 8-1	大学協力協定締結状況
資料 8-21	国交 8-2	講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2014 年版)
資料 8-22	国交 8-3	2011 2nd International Academic Joint Symposium Juntendo University-Peking University
資料 8-23	国交 8-4	第 2 回シャリテ医科大学—順天堂大学 ジョイント・シンポジウムプログラム
資料 8-24	国交 8-5	第 5 回アジア太平洋メディカルフォーラムプログラム
資料 8-25	国交 8-6	東京医科歯科大学*順天堂大学 餅つき大会 案内
資料 8-26	国交 8-7	平成 26 年度 表敬訪問・行事一覧
資料 8-27	国交 8-8	外国人短期研修参加者数の推移
資料 8-28	国交 8-9	大学院外国人留学生数の推移
資料 8-29	総務 8-3	平成 26 年度事業報告書 「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」
資料 8-30	高セ 8-1	平成 26 年度事業報告（資料編） 「24. 災害医療・医療ボランティア活動」
資料 8-31	企画 8-1	東日本大震災医療従事者等派遣申請・報告書

第 8 章 社会連携・社会貢献

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料 8-32	医 8-1	地域枠学生カリキュラム
資料 8-33	院医 8-1	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (既出 資料 4-3-11)
資料 8-34	院医 8-2	大学院医学研究科博士課程連携大学院 (既出 資料 4-3-10、資料 5-10、資料 6-9)
資料 8-35	院医 8-3	順天堂大学における大学間連携 (H26 実績)
資料 8-36	院医 8-4	学外施設学修申請書 (既出 資料 4-3-9)
資料 8-37	ス 8-1	さくらキャンパス施設使用規程
資料 8-38	保看 8-1	三島市との協定書
資料 8-39	保看 8-2	みしま教養セミナー『順天堂大学コース』の開設について
資料 8-40	保看 8-3	保健看護学部 公開講座のお知らせ
資料 8-41	保看 8-4	順天堂大学三島キャンパス施設利用規則
資料 8-42	社連 8-5	社会連携推進室ホームページ
資料 8-43	総務 8-4	2015 年世界陸上競技選手権大会北京大会の米国代表チーム事前合宿地に本学さくらキャンパスが決定
資料 8-44	臨支 8-5	本学ホームページ「理研・順天堂共同研究発表会を開催」
資料 8-45	臨支 8-6	本学ホームページ「理研・順天堂大学・日立研究連携ワークショップを開催」
資料 8-46	再編 8-6	2014 (平成 26 年) 2 月 21 日 (金) 東京新聞「東京消防庁新基準適用第 1 号 順天堂の新病棟で訓練」
資料 8-47	再編 8-7	次世代環境医療研究会 2013 年度報告書
資料 8-48	再編 8-8	第 1 回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料 8-49	再編 8-9	第 2 回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料 8-50	再編 8-10	第 3 回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料 8-51	再編 8-11	第 4 回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料 8-52	院医 8-5	国立がん研究センター・順天堂連携大学院シンポジウムポスター